

早期景気観測調査

【10-11月期 調査結果概要報告書】

令和2年12月

 甲府商工会議所

◆調査要領

1. 調査の目的： 山梨県内で最も速報性の高い『街角の景況感』を把握する調査として中小企業の明日の経営活動に資する。
2. 調査実施機関： 甲府商工会議所
3. 調査実施時期： 令和2年11月16日(月)～11月30日(月)
4. 調査対象： 当所会員132事業所
5. 調査方法： ファクシミリによるアンケート方式
6. 有効回答数： 92件
7. 有効回答率： 69.7%
8. 特記事項： 原則、小数点以下第二位で四捨五入

◆結果概要

【10-11月期の動き】

全体業況は▲56. 5と8-9月期より12. 7増と大幅に改善。

向こう3ヶ月の業況は改善の見通しだが、実態は横ばい、悪化と見通す企業が多数。

10-11月期の全業種総合の業況DIは、▲56. 5（前期比12. 7ポイント増）と大幅な改善となった。

向こう3ヶ月の先行き業況は改善する見通しだが、悪化から不变、不变から悪化への変化が多いため、実態は横ばい、悪化と見通す企業が多い。

業種別では、製造業、建設業、卸売業、小売業が改善、サービス業が悪化となった。

製造業の業況DIは▲47. 4（前期比7. 6ポイント増）と改善となった。

○改善⇒売上DI、採算DI、従業員DI ○悪化⇒仕入単価DI

○横ばい⇒金融貸出しDI

向こう3ヶ月の業況は、改善する見通し。

建設業の業況DIは▲35. 3（前期比14. 7ポイント増）と改善となった。

○改善⇒売上DI、採算DI ○悪化⇒仕入単価DI、従業員DI、金融貸出しDI

向こう3ヶ月の業況は、改善する見通し。

卸売業の業況DIは▲80. 0（前期比4. 2ポイント増）と改善となった。

○改善⇒売上DI、採算DI、仕入単価DI、従業員DI ○悪化⇒金融貸出しDI

向こう3ヶ月の業況は、改善する見通し。

小売業の業況DIは▲31. 8（前期比37. 8ポイント増）と改善となった。

○改善⇒売上DI、採算DI、仕入単価DI、従業員DI ○悪化⇒金融貸出しDI

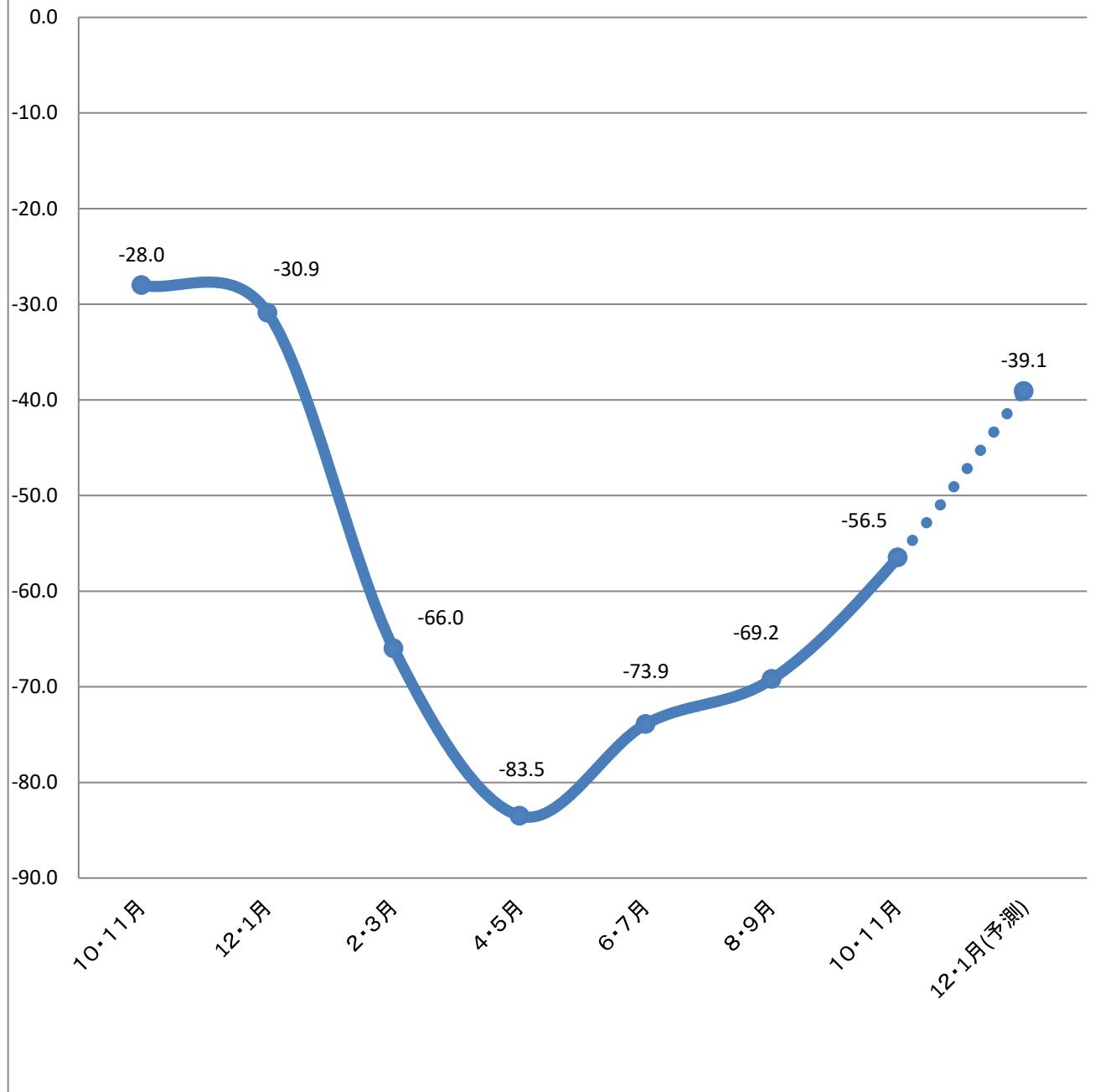
向こう3ヶ月の業況は、改善する見通し。

サービス業の業況DIは▲100. 0（前期比7. 7ポイント減）と悪化となった。

○改善⇒採算DI、仕入単価DI、従業員DI ○悪化⇒売上DI、金融貸出しDI

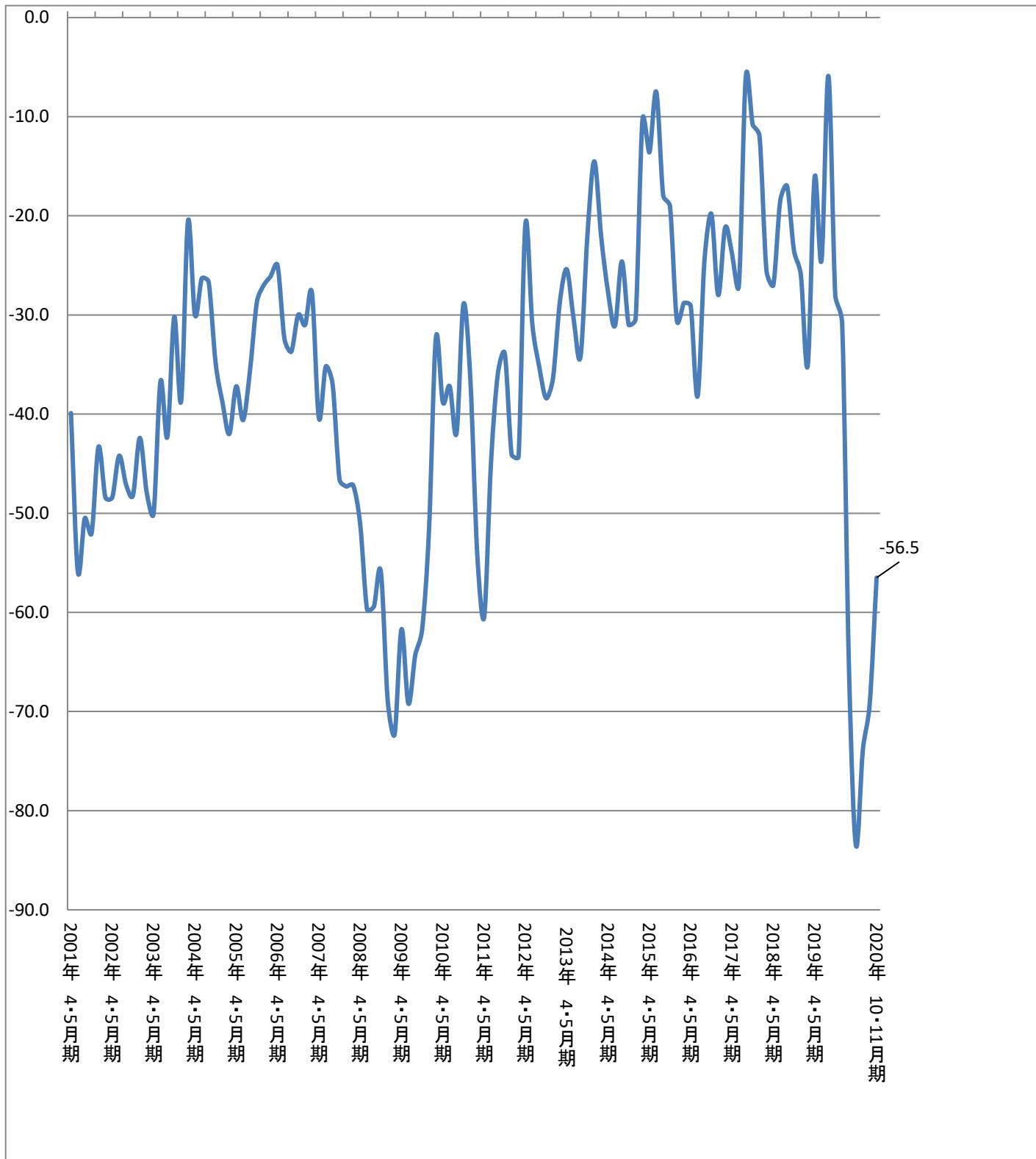
向こう3ヶ月の業況は、改善する見通し。

業況D I の推移



業況DIの推移

(2001年4・5月期～2020年10・11月期)

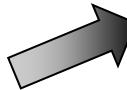
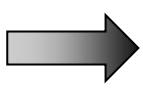


◆全業種・業種別詳細

※ D I 値 (景況判断指数) について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

◆指標の見方

前回D I に比べて (先行は今回実績値に比べて)		
改善	不変	悪化
		
D I 値	D I 値	D I 値

※仕入単価D I は、仕入単価が下落した場合、「↗」(改善)と表示しております。

従業員D I は、従業員が不足している場合、「↗」(改善)と表示しております。

◆ 全業種総合

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲56. 5	▲39. 1	▲57. 6	▲51. 1	▲19. 6	12. 0	▲1. 1

10-11月期の全業種総合の業況D I は、▲56. 5 (前期比12. 7ポイント増) と3期連続の改善となった。

項目別

○今期より改善⇒仕入れ単価D I (▲26. 4→▲19. 6)

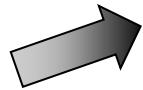
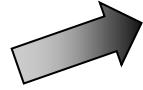
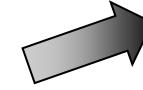
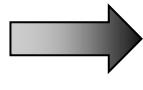
○3期連続改善⇒売上D I (▲67. 0→▲57. 6)、採算D I (▲62. 6→▲51. 1)、
従業員D I (▲2. 2→12. 0)

○3期連続悪化⇒金融貸出しD I (8. 8→▲1. 1)

向こう3ヶ月の先行き業況は、▲39. 1と改善する見通し。

◆ 業種別

製造業

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲47. 4	▲31. 6	▲57. 6	▲42. 1	▲31. 6	0. 0	0. 0

業況D1は▲47. 4（前期比7. 6ポイント増）と改善となった。

項目別

○今期より改善⇒売上D1（▲60. 0→▲57. 6）、採算D1（▲50. 0→▲42. 1）、従業員D1（▲15. 0→0. 0）

○今期より悪化⇒仕入単価D1（▲20. 0→▲31. 6）

○今期より横ばい⇒金融貸出しD1（0. 0→0. 0）

向こう3ヶ月の業況は、▲31. 6と改善する見通し。

建設業

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲35. 3	▲29. 4	▲41. 2	▲29. 4	▲23. 5	23. 5	0. 0

業況D1は▲35. 3（前期比14. 7ポイント増）と2期連続の改善となった。

項目別

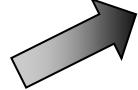
○2期連続改善⇒売上D1（▲43. 8→▲41. 2）、採算D1（▲43. 8→▲29. 4）、

○今期より悪化⇒仕入単価D1（▲18. 8→▲23. 5）、従業員D1（25. 0→23. 5）

金融貸出しD1（6. 3→0. 0）

向こう3ヶ月の業況は、▲29. 4と改善する見通し。

卸売業

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲80. 0	▲35. 0	▲65. 0	▲70. 0	▲10. 0	10. 0	5. 0

業況D Iは▲80. 0（前期比4. 2ポイント増）と3期連続の改善となった。

項目別

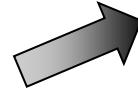
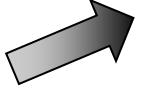
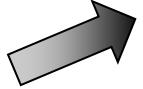
○今期より改善⇒採算D I（▲80. 0→▲84. 2）、仕入単価D I（▲20. 0→▲42. 1）

○3期連続改善⇒売上D I（▲73. 7→▲65. 0）、従業員D I（5. 3→10. 0）

○2期連続悪化⇒金融貸出しD I（15. 8→5. 0）

向こう3ヶ月の業況は、▲35. 0と改善する見通し。

小売業

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲31. 8	▲27. 3	▲45. 5	▲50. 0	▲18. 2	22. 7	▲9. 1

業況D Iは、▲31. 8（前期比37. 8ポイント増）と改善となった。

項目別

○3期連続改善⇒採算D I（▲56. 5→▲50. 0）、従業員D I（0. 0→22. 7）

○今期より改善⇒売上D I（▲73. 9→▲45. 5）、仕入単価D I（▲30. 4→▲18. 2）、

○2期連続悪化⇒金融貸出しD I（4. 3→▲9. 1）

向こう3ヶ月の業況は、▲27. 3と改善する見通し。

サービス業

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
▲100. 0	▲85. 7	▲85. 7	▲64. 3	▲14. 3	0. 0	0. 0

業況DIは▲100. 0（前期比7. 7ポイント減）と悪化となった。

項目別

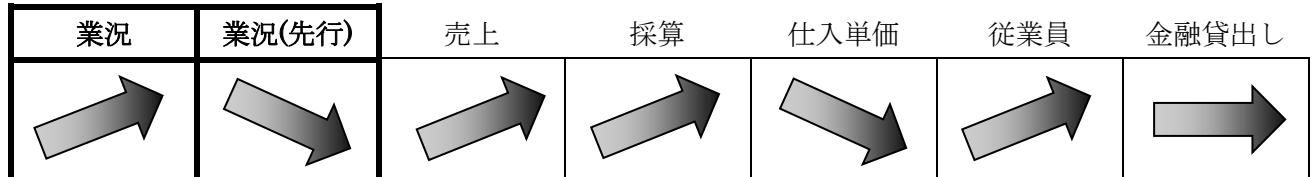
○2期連続改善⇒採算DI（▲84. 6→▲64. 3）、仕入単価DI（▲15. 4→▲14. 3）、従業員DI（▲30. 8→0. 0）

○今期より悪化⇒売上DI（▲84. 6→▲85. 7）、金融貸出しDI（23. 1→0. 0）

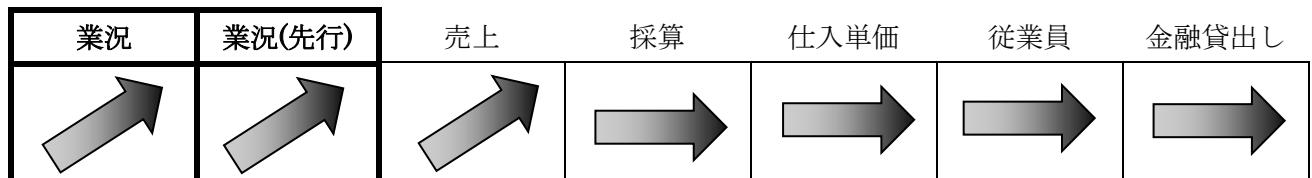
向こう3ヶ月の業況は、▲85. 7と改善する見通し。

◆ 業種別詳細

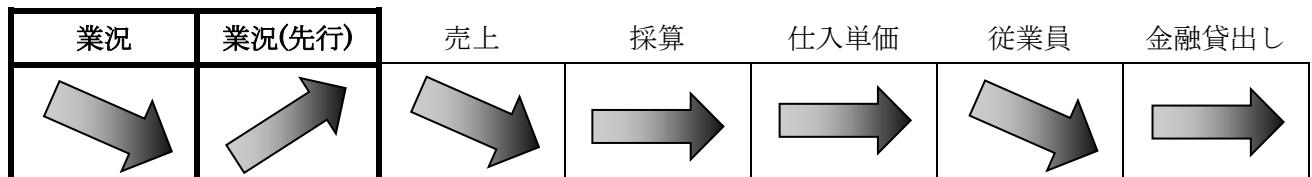
製造業（食品）



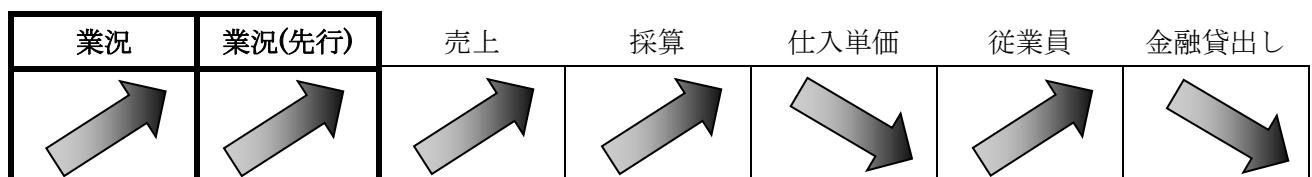
製造業（工業製品）



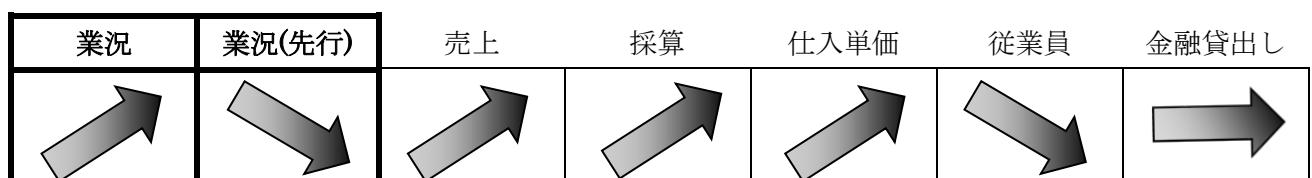
製造業（宝飾）



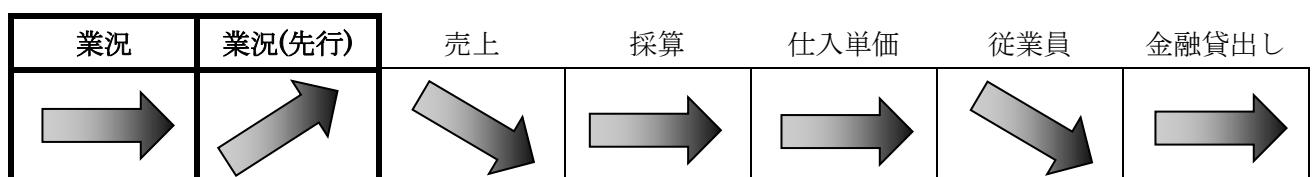
建設業（建築）



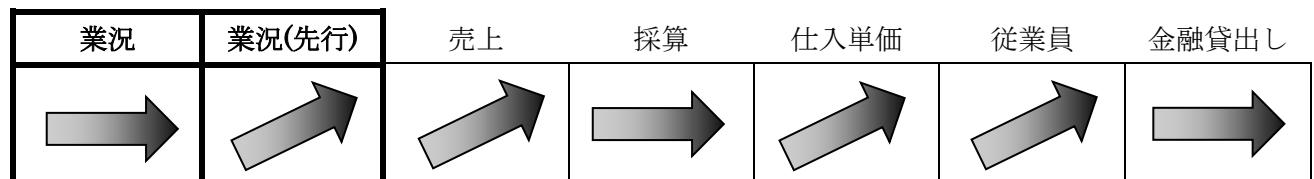
建設業（土木）



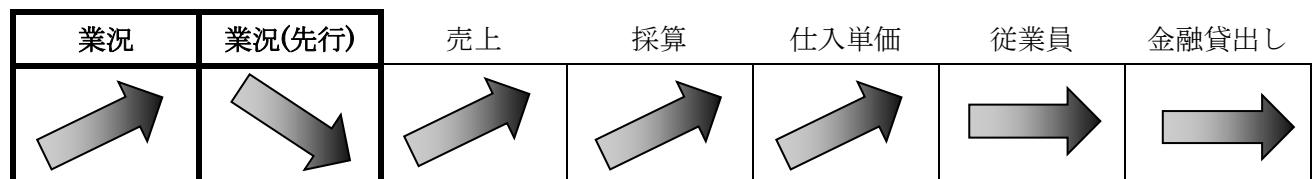
建設業（鉄鋼）



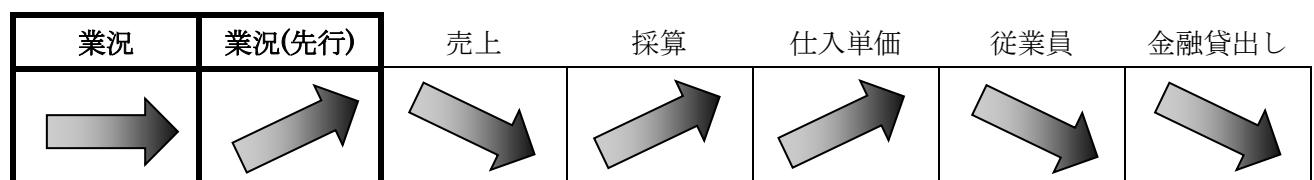
卸売業 (食品)



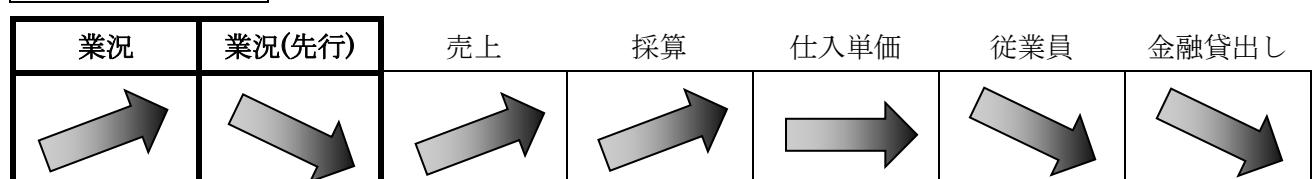
卸売業 (繊維)



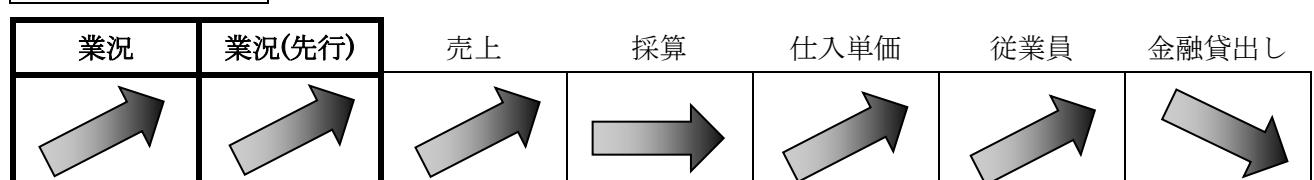
卸売業 (その他)



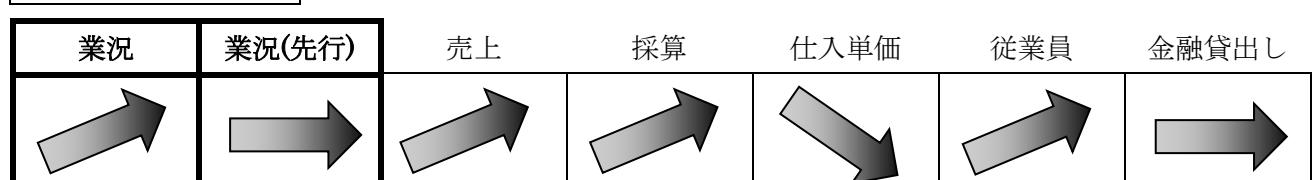
小売業 (大型店)



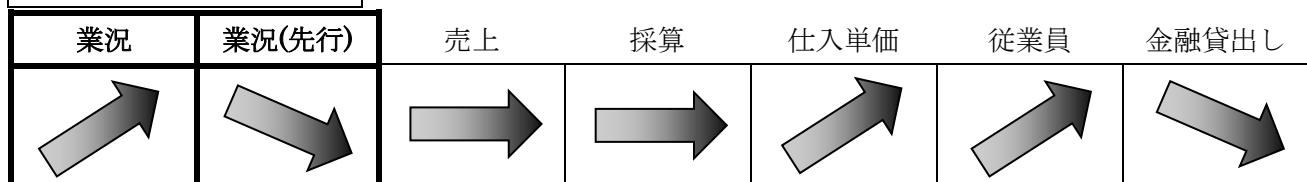
小売業 (食料品)



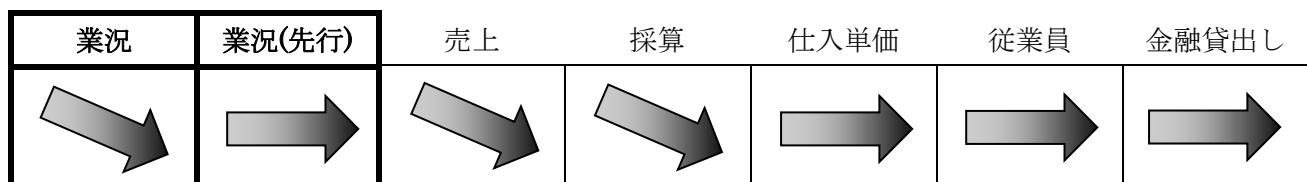
小売業 (事務用品)



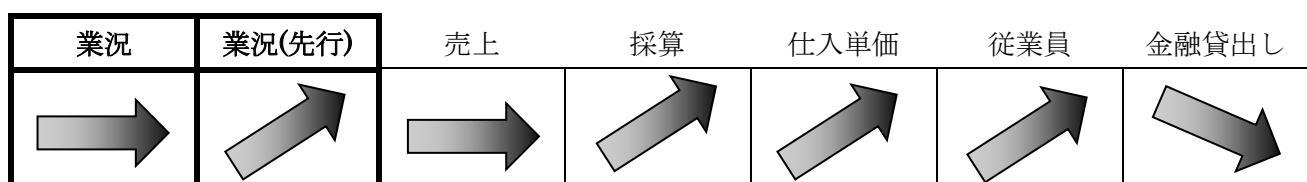
小売業 (趣味・日用品)



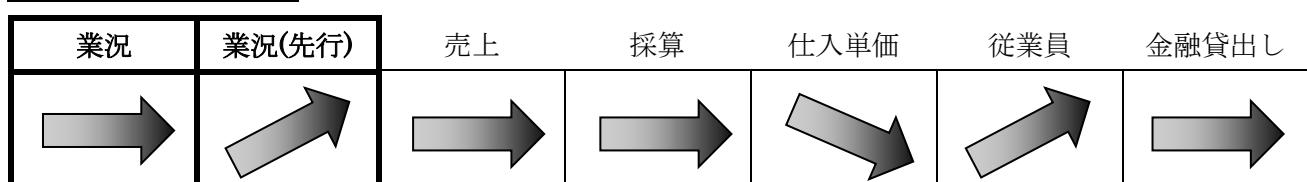
小売業 (家電)



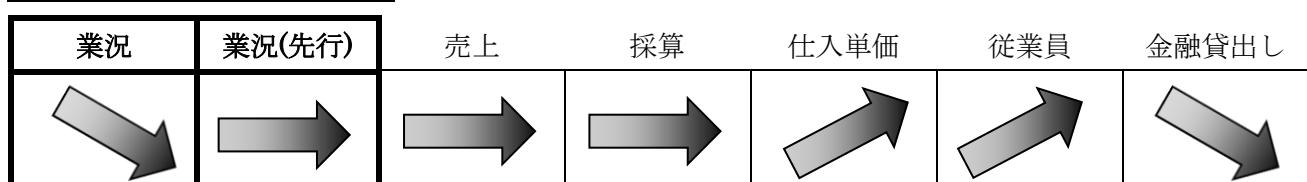
サービス (ホテル・旅館)



サービス業 (観光)



サービス業 (飲食その他)



➤ 中小企業の声（現状や直面している課題 等）

【製造業】

製造業（食品）

- ・主要取引先であるブライダル関係やホテル・旅館業界の需要が落ち込んだため、業況が悪化。

製造業（ニット）

- ・コロナ禍による先行き不透明なためか、小ロットの繰り返しオーダーが増えている。追加の繰り返しでは、多忙ではあるが売上金額は伸びないため、厳しい状況となっている。

【卸売業】

卸売業（食品）

- ・新型コロナの第3波が今後どのように影響するか見通しにくい。
- ・Go to キャンペーンにより少し回復したが、コロナ前の水準には戻っていない。

卸売業（その他）

- ・Go to トラベルの影響で增收効果があったが、新型コロナ感染拡大により今後の状況は不透明。

【建設業】

建設業（建築）

- ・物件数は多いが、小規模な改修等が多いため、契約額の厳しさや人員のやりくりが大変。また、コロナ禍による人材確保の厳しさから、社員にかなりの負担をお願いしている状況。

建設業（土木）

- ・責任感をもって仕事をできる人材が不足している。

【小売業】

小売業（食料品）

- ・新型コロナの影響により、取引先からの受注の減少・キャンセルが半年以上続いている。

小売業（趣味・日用品）

- ・売上・採算は前年同期と戻りつつあるが、最近の感染者数の増加から今後どうなるか予測ができない。

【サービス業】

サービス業（ホテル・旅館）

- ・新型コロナウイルスの影響により、10月はお客様が激減し、11月も厳し状況が続いている。この状況がいつまで続くのか不安。
- ・Go to キャンペーンにより、お客様が土曜日に集中してしまっている。

サービス業（観光）

- ・貸切バス事業については、先を見通すことができない状況。
- ・Go to キャンペーンの影響で仕事は増えたが、個人客がほとんどで団体客が全くないため、売上が伸びない。

サービス業（飲食その他）

- ・10月は Go to イートによって売上が戻ってきたが、最近の感染者急増により、忘年会などが期待できず、厳しい状況になると予想される。

以上